

令和6年度入学試験問題

地理歴史

100点満点

《配点は、一般選抜学生募集要項に記載のとおり。》

地理B (1～10 ページ) 世界史B (11～26 ページ)
日本史B (27～41 ページ)

(注 意)

1. 問題冊子および解答冊子は監督者の指示があるまで開かないこと。
2. 問題冊子は表紙のほかに41 ページある。
3. 問題は地理B 5 題，世界史B 4 題，日本史B 4 題である。
4. 試験開始後，選択した科目の解答冊子の表紙所定欄に学部名・受験番号・氏名をはっきり記入すること。表紙には，これら以外のことを書いてはならない。
5. 総合人間学部「文系」・文学部・教育学部「文系」・法学部「前期日程」・経済学部「文系」受験者は，地理B・世界史B・日本史Bのうちから1科目選択すること。
6. 解答は，すべて解答冊子の指定された箇所に記入すること。
7. 解答に関係のないことを書いた答案は無効にすることがある。
8. 解答冊子は，どのページも切り離してはならない。
9. 問題冊子は持ち帰ってもよいが，選択した科目の解答冊子は持ち帰ってはならない。

日本史 B

(4 問題 100 点)

I 日本史 B 問題

(20 点)

次の史料(A～C)を読み、問(1)～(19)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。なお、史料の表記は便宜上、改めたところがある。

A

刑部卿従三位百済王敬福^(a)薨ず。その先は、百済国の義慈王より出ず。高市岡本宮に^(a)馭宇^{あめのしたしらしめ}しし天皇の御世、義慈王、その子豊璋王^{ほうしょう}及び禅広王を遣わして入り侍らしむ。後岡本の朝庭^(b)におよびて、義慈王の兵、敗れて唐に降る。その臣、佐平福信、よく社稷^{しゃしょく}を復し、遠く豊璋を迎えて、絶統^(注)を紹ぎ興す。豊璋、^(c)纂基^{さんき}の後、譖^{そしり}をもって横に福信を殺す。唐の兵、これを聞き、また州柔^{つぬ}を攻む。豊璋、我が救いの兵とともに拒むも、救いの軍、利あらず。豊璋、船にのりて高麗^(注)にのがる。禅広、困りて国に帰らず。藤原の朝庭、号^(d)を賜いて百済王という。(中略)

(敬福は)天平年中、仕えて従五位上陸奥守にいたる。時に聖武皇帝、

アの銅像を造る。冶鑄^{やちゆう}、ここにおわるも、塗金足らず。しかるに陸奥国^(e)より馳駆^{ちえき}して、小田郡出だすところの黄金九百両を貢ぐ。我が国家の黄金、これより始めて出ず。聖武皇帝、甚だもって嘉^よみ尚^{たつと}びて従三位を授く。
(中略)神護の初め、刑部卿に任ず。薨ずる時、年六十九。

(『続日本紀』天平神護2年(766)6月壬子条)

(注) 「絶統を紹ぎ興す」は、絶えた王統を復興すること。

「纂基」は、王位を継ぐこと。

「州柔」は、豊璋の居城で、周留城ともいう。

「高麗」は、高句麗のこと。

「冶鑄」は、金属を溶かして鑄造すること。

問

- (1) 下線部(a)の人物が、従三位の地位を得た理由を説明せよ。
- (2) 下線部(b)は、飛鳥の後岡本宮で政治をとった女性天皇の時代を指す。この天皇は誰か。
- (3) 下線部(c)の翌年、対馬・壱岐・筑紫に設置された防衛施設は何か。漢字1字で答えよ。
- (4) 下線部(d)に関連して、のちに桓武天皇は、自らの母が渡来系氏族の出身であることから「百濟王」の一族を厚遇した。桓武天皇の母は誰か。
- (5)

ア

 には、華嚴經の教主(本尊)である仏の名が入る。この仏の名を答えよ。
- (6) 下線部(e)の「陸奥国」について、当時、国府がおかれていた城柵の名称を答えよ。

B

同(建武)二年(1335)、(中略)さて関東の合戦の事、先達て京都へ申されけるによりて、將軍御奏聞^{(注)(f)}ありけるは、関東において、凶徒^(g)既に合戦をいたし、鎌倉に責め入るの間、イ朝臣無勢にして、ふせぎ戦うべき智略なきによりて、海道^(注)に引き退きしその聞こえある上は、いとまを給いて合力を加うべき旨、御申たびたびにおよぶといえども、勅許なきの間、所詮私にあらず、天下の御為^{おんため}のよしを申し捨て、八月二日京を御出立あり。このころ公家を背き奉る^(注)人々、その数をしらずありしが、皆喜悅の眉をひらきて、御供申しけり^(h)。三河の矢作に御着きありて、京都鎌倉の兩大將軍御対面⁽ⁱ⁾あり。

(『梅松論』)

(注) 「將軍」は、この場合、足利尊氏をさす。

「海道」は、東海道のこと。

「公家」は、天皇あるいは朝廷をさす。

問

- (7) 下線部(f)について、
- (あ) 「将軍」の「御奏聞」の内容を簡潔に記せ。
 - (い) 「御奏聞」された人物はいかなる対応をとったのか。簡潔に記せ。
- (8) 下線部(g)の「凶徒」の首謀者は誰か。その人物の名を記せ。
- (9) 下線部(h)について、「皆」が「御供申しけり」となった原因について、「御供」した者の立場を踏まえて、簡潔に記せ。
- (10) 下線部(i)の「鎌倉」の「大將軍」は である。 は元弘3年(1333)12月に成良親王を奉じ、鎌倉へ下り、関東10ヵ国を事実上支配していた。その人物の名を記せ。
- (11) 尊氏は8月19日に「凶徒」を破り、鎌倉に入る。その後、再三の帰洛の命に従わなかったため、京より追討の官軍が派遣されることになった。この時の官軍の指揮者のひとりとはかつて鎌倉を攻略した人物であった。その人物の名を記せ。
- (12) この出典である『梅松論』は南北朝期を描いた軍記物・歴史書である。この『梅松論』とほぼ同じ時期を扱うが、約30年ほど後の時代までを叙述した軍記物の名称を記せ。

C

覚え

一、逆罪の者仕置の事

一、付け火致し候者仕置の事

(j) ウ に疵付け、或いは損じさし候者仕置の事

右の科人これ有らば、^{とが}兪儀^{せんぎ}を遂げ、一領一家中迄にて外へ障り^{さわ}これ無きにお

いては、^(注)向後伺うに及ばず。江戸の御仕置に准じ、自分仕置申し付けらるべ

く候。但し、^(k)他所へ入り組み候わば、エ 番老中迄相伺わるべく候。

^(l)遠島に申し付けるべき科は、領内に島これ無きにおいては永牢、或いは親類

縁者等へ^{きつと}急度^(注)預け置かるべく候。且つ又、ウ あわれみの儀、兼々仰

せ出され候通り、いよいよ堅く相守り、入念に申し付けらるべき者也。

丑(元禄 10 年(1697))

六月 日 この書付は、壹万石以上へばかり相触る^(m)

(注) 「兪儀」は、詳しく取り調べること。

「向後」は、これから後、の意味。

「急度」は、嚴重に、の意味。

問

- (13) この法令が出された時の将軍は誰か。
- (14) 下線部(j)に関連して、大都市に発展した江戸では、しばしば発生した火事が大きな被害をもたらした。江戸の町に甚大な被害をもたらした、江戸城も類焼して天守閣が焼失するにいたった火事の名称を記せ。
- (15) に入る適切な語句を記せ。
- (16) 下線部(k)はどのような行為を指すか。文脈に即して、簡潔に記せ。
- (17) 下線部(l)に関連して、19世紀初頭、幕府は、関東農村の治安維持をはかるため、領主の区別なく犯罪人を取り締まる役職を設けた。その役職は何か。
- (18) 老中を含む多くの幕府役職は、交代制で政務を扱った。 に入る適切な漢字1字を記せ。
- (19) 下線部(m)が示す人々は、ふつう何と呼ばれるか。

次の文章(①～⑨)の ～ に入る最も適当な語句を記せ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

- ① 大宰府は、平安時代にも重要な行政組織であり続けた。管内には という直営田が置かれ、税収の確保がはかられた。外港である には、新羅や唐の商人が頻繁に来航し、のちの日宋貿易につながった。941年、反乱を起こした に攻撃されたが、行政機能はほどなく回復したと考えられている。
- ② 院政期になると庶民を生き生きと描写する作品が現れる。9世紀中葉に起こった応天門の変を素材に、炎上する応天門を見あげる群衆や貴族・官人を描いた『 』は後白河法皇の命で作成されたと考えられている。また、四天王寺に残る『 』の下絵には、大和絵の手法で当時の貴族や庶民の生活の様子が活写されている。
- ③ 12世紀中葉から彫刻作品では玉眼という技法が用いられ、鎌倉時代には一般化する。仏像の目を本物らしく見せるために水晶をはめ込むもので、より写実的な造形が生まれた。1180年、 の令旨をうけ反平氏勢力が挙兵するなか、平氏の軍勢は南都を焼き討ちしたが、その復興の過程で作成された仏像に玉眼技法を用いたものが多い。例えば、5世紀頃の北インドで活躍し法相教学を確立させた学僧である と世親の像は、南都復興期の代表作のひとつである。
- ④ 南北朝の合体が実現すると、14世紀末から15世紀初頭にかけて、いわゆる北山文化が花開いた。能楽では、 が理論書として『風姿花伝』を残し、水墨画では、 によって『瓢 鮎ひょうねんす図』が描かれた。その後、東山文化が隆盛するなか、中国に渡って作画技巧を学んだ が『秋冬山水図』を描き、日本風的水墨画様式を確立した。

- ⑤ 豊臣氏滅亡後、徳川家康は、天皇・公家が守るべき規範などを示した [サ] を定め、朝廷への統制を強めた。その後、徳川秀忠は、娘の [シ] を後水尾天皇に入内させ、朝廷に対する幕府の影響力を強めていった。
- ⑥ 近世の村は、 [ス] と総称される庄屋(名主)・組頭(年寄)・百姓代という村役人が中心となって村政が行われる自治組織であった。領主に対する年貢などの諸負担は、村全体の責任で納入された。村では、村民が数戸ごとの [セ] に編成され、諸負担の納入や犯罪防止の連帯責任を負わされていた。
- ⑦ 17世紀後期、 [ソ] は各地を旅して俳句を広め、『奥の細道』などの優れた紀行文を残した。18世紀に入ると、俳句の形式をかりて世相を風刺する [タ] が始まり流行した。
- ⑧ 幕府天文方の [チ] のもとで測量術を学んだ伊能忠敬は、全国の沿岸を測量し、その成果により、「大日本沿海輿地全図」が作られた。 [チ] は、西洋の天文学を取り入れて寛政暦を作った人物で、伊能の測量事業を助けた。
- ⑨ 1967年から69年にかけて提訴された四大公害訴訟、すなわち、不知火海沿岸部における有機水銀中毒被害、 [ツ] 県における同じ有機水銀中毒被害、 [テ] 川流域におけるカドミウム中毒被害、四日市コンビナート周辺の大気汚染による健康被害に関する裁判は、環境問題への取り組みの重要性を国民に痛感させた。1967年に制定された [ト] には当初、環境保護は経済発展を阻害しない範囲で行うという条項があったが、国民の関心の高まりの下、70年の同法改正で削除された。

次の文章(A～C)の ～ に入る最も適当な語句を記し、問(1)～(17)に答えよ。解答はすべて所定の解答欄に記入せよ。

A

鎌倉後期から室町時代にかけて、百姓たちは、神社の祭祀組織である を中心に、自分たちで合議を行う によって運営する と呼ばれる自治的な村落を作った。百姓たちは村落のなかで掟を定め、これに背く者を自分たちで村落から追放するなど警察権を行使する地下検断を行い、 が領主に対して年貢の納入を請け負うことも行われた。 を構成する有力農民のなかには、大名と主従関係を結んでその軍事的基盤となる者もあり、彼らは と呼ばれた。

その後、 を中心に結束した百姓は、都市民や武士たちとも連携し、債務破棄などを認める法令の発令を要求して、土一揆をおこすようになった。興福寺の尋尊は、その様子を「日本の開白(b)より以来、土民の蜂起、是れ初め(c)なり」と年代記に記している。京都の近辺からはじまったそうした動きは各地に広がりを見せ、大和国では、疱瘡地蔵(d)と呼ばれる石仏の右脇に、債務破棄を宣言したともいわれる碑文が刻まれた。このように、たびたび土一揆がおこるなか、苦境に追い込まれた室町幕府は、手数料(e)を幕府に支払うことを条件として、債権の確認、または債務の破棄を認める法令(f)を出し、幕府財政の安定を図った。

問

- (1) 下線部(a)に関して、掟にしたがわずに山野などの用材を勝手に採取することを禁じられた村の共同利用地を何というか。漢字3字で答えよ。
- (2) 下線部(b)や下線部(f)のような法令を、総じて何というか。漢字3字で答えよ。
- (3) 下線部(c)に関して、
 - (a) この記事が記す土一揆は、翌年に征夷大將軍となる人物の代始めにおこった。その將軍の名前を記せ。
 - (i) この土一揆を鎮圧したのは、畠山満家の軍勢である。当時、満家が務めていた、室町幕府の將軍を補佐する役職は何か。
- (4) 下線部(d)について、かつての神戸^{かんべ}四箇郷に含まれ、この石仏が立地する場所はどこか。その地名を漢字2字で答えよ。
- (5) 下線部(e)の手数料を何というか。漢字3字で答えよ。

B

江戸時代は、船舶による物資の流通が大きく発展した時代であった。大坂・京都・江戸の三都が発展し、諸藩の城下町が拡充されるのにもとない、日常の消費物資の需要が増大し、必然的に商品流通の拡大をうながしたのである。

17世紀前半には、廻船が大坂から江戸への多様な商品輸送の主力となり、17世紀後半には、奥羽にある幕府領の年貢米を江戸へ輸送するよう命じられたが、西廻り航路と東廻り航路を整備し、これにより全国規模で商品が流通する基盤が完成した。海と内陸とをつなぐ河川の舟運も各地で発達し、物資や人の輸送が行われた。都市の河岸には、江戸のにあった魚市場のように、生産地と消費地を結んで栄える商業地ができた。時代が下がるにつれ、海の船は大型化が進み、18世紀末頃には、日本海の北前船など遠隔地を結ぶ廻船が各地で発達した。

海運の発達(1)は海外に漂流する船の増加にもつながった。漂流民が帰国できるのは稀であったと考えられるが、たとえば東南アジアに流された者の中には中国船でに送り返され、での取り調べを経た後、元の居住地に帰ることのできた漂流民もいた。18世紀後期以降になると、漂流民の送還を口実に日本に來航する外国船も現れた。

問

- (6) 下線部(g)に関連して、複雑な構造を持つ木製の船舶が各地で造られた背景には、安価な鉄製諸道具の普及があった。江戸時代に入って大きく改良され、良質な鉄の大量生産を支えた、砂鉄を原料とする製鉄法を何というか。
- (7) 下線部(h)の徴収を現地で担う代官を統轄していた幕府の職は何か。
- (8) 下線部(i)について、この時、房総半島を迂回していったん相模国や伊豆国に寄港した後、安全に江戸湾に入る航路が開拓された。その寄港地の一つで、幕末の外交の舞台となった伊豆半島の港町はどこか。
- (9) 下線部(j)について、全国的な商品流通を支えたもう一つの重要な基盤に、三貨制度の確立がある。三都や城下町にあって、預金や貸付、為替手形の発行なども行い、全国的な貨幣の流通を支えた商人を何というか。
- (10) 下線部(k)に関して、東廻り航路の寄港地で、利根川の流路の改修により江戸とつながり、醤油の産地として成長した場所はどこか。
- (11) 下線部(l)に関して、北前船の船頭として航海の経験を積み、エトロフの航路を開いた商人は誰か。

C

野球の日本への導入は1872年、東京第一番中学校教師であったホーレス・ウィルソンがベースボールを紹介したことが最初とされる。その後、第一高等中学校卒業生である中馬^{ちゅうまかのえ}庚^(m)が、1894年刊行の書籍で初めてベースボールを「野球」と訳した。また、俳句や短歌の革新運動を牽引し、雑誌『ホトトギス』などで活躍した ケ は、自らの本名をもじった「野球(の・ぼーる)」という雅号を用いるほど、野球に熱中した。高等学校や中学校を中心に、横浜在住の⁽ⁿ⁾外国人チームや他校との試合などを通じて、野球は次第に普及していった。

明治末期には、野球が教育上「害毒」であると批判する特集記事が『東京朝日新聞』に連載され、^(o)それへの反論も多く行われた。この論争をへて、1915年8月に全国中等学校優勝野球大会が開始された。1920年代に入ると、朝鮮・満州^(p)、そして台湾の代表も大会へ出場するようになった。また、1924年には春にも全国大会が行われるようになり、翌年に東京・大阪・名古屋で本放送を開始した コ での実況中継もあいまって、野球は大衆娯楽としての地位も獲得していった。

1937年7月、サ 事件に始まる日中両国の軍事衝突とその拡大をうけ、日本政府は戦時体制の確立に向けた政策を次々と打ち出すが、その影響は野球へも及んでいった。同年夏の全国大会では、甲子園球場に「拳国一致航空報国^(q) 軍用機献納資金募集」との垂れ幕がさげられ、翌年夏の大会開会式では、全選手により「武士道の精神にのっとり正々堂々と試合せんことを期す」との選手宣誓が唱和された。1941年の大会が各地で予選が行われたさなかに中止されたのも、シ との軍事衝突に備えた関東軍特種演習実施に際し、不要不急の鉄道利用が禁じられたためである。

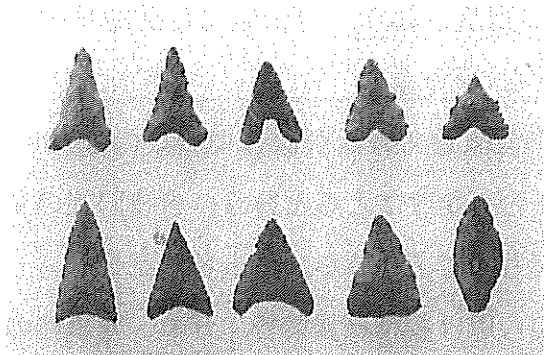
同年12月にイギリス・アメリカと開戦して以降、1942年に文部省主催の「幻の甲子園」と呼ばれる大会が行われたりもしたが、翌年には中止され、1944年5月には文部省が各学校野球部の「一切清算」^(r)を通達するに至る。だがそのころには、活動実態のある野球部は、もはやほとんど存在していなかったという。

問

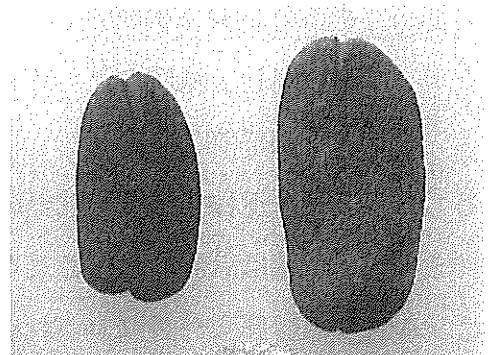
- (12) 下線部(m)の学校の教員が、1891年、教育勅語の奉読式において十分敬礼をしなかった点を「不敬」ととがめられ、教職を解かれるに至った。この教員とは誰か。
- (13) 下線部(n)に関して、横浜には外国人居留地が設定されていたが、条約改正によって、外国人の居住場所の制限が撤廃された。1899年の条約発効によって成ったこの状況を、一般に何と呼ぶか。
- (14) 下線部(o)に関して、野球を擁護した側の主要人物に、早稲田大学野球部長を務めた安部磯雄がいる。彼が党首となり、1932年に合法的無産政党勢力が合同して結成された政党を何というか。
- (15) 下線部(p)の中心地の一つである大連で野球がはじまったのは1908年、南満州鉄道株式会社の社員のはたらきかけによるという。当時同社の主要な鉄道路線は、旅順とどこを結ぶものであったか。都市名を記せ。
- (16) 下線部(q)の語は、これ以前から用いられる言葉で、五・一五事件の直後の内閣も「挙国一致内閣」と称した。その内閣の首相は誰か。
- (17) 下線部(r)のような状況に至る要因の一つには、学校生徒を軍需工場などで労働させたことがあったと考えられる。これを何というか。

次の問(1), (2)について, それぞれ 200 字以内で解答せよ。解答はいずれも所定の解答欄に記入せよ。句読点も字数に含めよ。

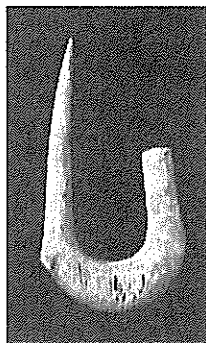
- (1) 図 a ~ d に示した遺物を具体的な根拠として示しつつ, 縄文時代における生業とその特質について述べよ。



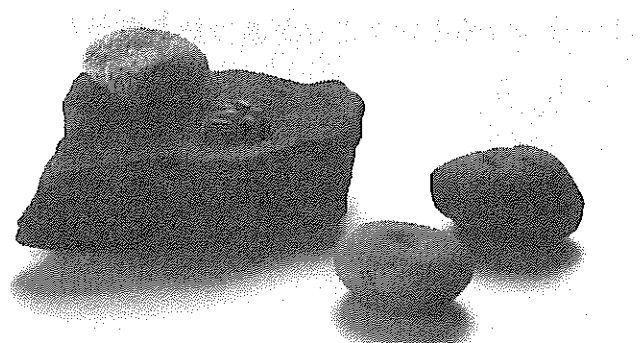
a



b



c



d

- (2) 女工(工女)は近代産業の発展にどのように関わったか。女工が生み出された背景, 従事した産業, 働き方を中心に説明せよ。

日本史B問題は, このページで終わりである。